

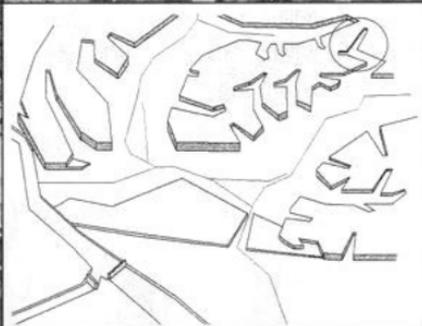
市川自然博物館

8-9月号 だより

(通巻93号)



自然博物館のめ



オニヤンマ

左上：空中でホバリングするメス。

左下：斜面すその湧水の流れで産卵する。

右上：いかつい顔をしたヤゴ。普段は砂に潜っている。

右下：まとまった環境の生息地は長田谷津しかない。

今年度の特集は、いろいろな自然の話題を紹介してゆきます。

第Ⅲ回は『市川のクワガタムシ』です。

自然の話題 III 『市川のクワガタムシ』



今でも、子供たちに人気のある昆虫といえば、カブトムシとクワガタムシでしょう！ 今回は、市川市内で見られるクワガタムシの生態やノコギリクワガタの大あごの違い、飼い方について紹介します。まずは、ノコギリクワガタとコクワガタの違いです。

●ノコギリクワガタ

体長は、約3～7cmです。オスは、体長の大きさによって大あごの形が大きく変化します。小型のものは、大あごも小さく、まっすぐ伸びていますが、体長がだんだん大きくなってくると、大あごも大きく発達し、弓形に曲がってきます。大型のものほど特徴的で、なんとも魅力的な大あごになります。

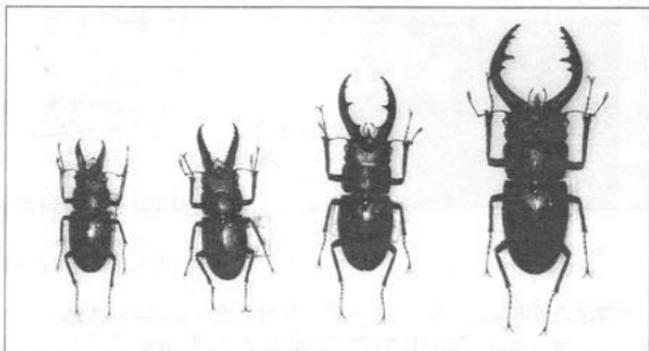
大あごのはさむ力を見るからに強そうですが、手をはさんでみるとそれほどでもないことに気づきます。

成虫は、夜間にコナラやクスギの樹液に集まり、昼間は、木の根元のやわらかい土や落ち葉の中で過ごします。



△ノコギリクワガタ

夏に野外で捕まえた成虫は、秋から冬の間には死んでしまいます。ノコギリクワガタの成虫は越冬できません。



△ノコギリクワガタの大あごの違い

●コクワガタ

体長は、約2～5cmです。オスは平たく小さめの大あごですが、はさみ力は強力です。手をはさまれると、あとがつくくらい強烈です。

成虫はノコギリクワガタと同様に、夜間に活動してコナラやクスギの樹液に集まりますが、昼間は、木の洞や裂け目にじっと潜んでいます。このような性質を潜洞性といいます。コクワガタの成虫は越冬することができ、翌年の夏に再び活動するものもいます。

●クワガタムシの生活

クワガタムシは、雑木林に住んでいる昆虫です。成虫は、夜間から早朝にかけて、活発に樹木で行動して、餌の樹液が出ている場所を探します。

オスとメスが会おうのは、樹液が出ている餌場の周辺です。メスがフェロモンという匂いの物質をだして、オスを誘います。交尾が終わると、メスは産卵場所を求めて移動します。産卵は、朽木の中でも、落葉広葉樹の朽木に好んで産卵します。産卵する朽木を選ぶと、大あごを使って穴を掘り、産卵管を差し込んで卵を産み付けます。卵は1つの穴に1個を産み付けて、そのあと丁寧に埋め戻します。種類によっては、産卵するときに、ハッキリとした産卵痕を大あごで表面に刻む種類もあります（コクワガタやルリクワガタ）。

・孵化から幼虫そして成虫

産み付けられた卵は、約2週間で孵化します。幼虫は、最初に朽木のやわらか



△コクワガタ

します。幼虫は、最初に朽木のやわらかい部分を食べて育ちます。成長した幼虫は、脱皮を2回繰り返して、3齢幼虫になります。十分に成長するとサナギになるための部屋（蛹室）を作ります。蛹室は、幼虫の大きさの約2倍で、周りの壁を糞でしっかりと固めて作ります。蛹室を作り終わると幼虫は体内の糞をすべて出してサナギになるのを待ちます。約3週間ほどすると頭部が割れて、サナギへと脱皮します。



△朽木幼虫

サナギは、3～4週間後に成虫に羽化します。羽化が終わり、体が完全に固まるまでには、普通一ヶ月以上かかるため秋に羽化したものは、蛹室の中で冬を越し、翌年の夏に野外に出て行きます。

ただし、初夏に羽化したものは、晩夏に野外に出て行くものもあります。

・クワガタムシの天敵

クワガタムシの成虫の天敵は、鳥類や哺乳類です。クスギやコナラの近くに落ちている死がい、カラスなどに食べられたものです。幼虫は、朽木の中にいるため、比較的鳥類や哺乳類におそわれませんが、コメツキムシの幼虫や寄生バチなどが天敵です。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
1年目							卵	幼虫					
2年目	幼虫						サナギ	成虫になり 蛹室で冬を越す					
3年目	成虫のまま 蛹室の中で冬を越す						蛹室からでて 野外で活動する						

△ クワガタの生活

●クワガタムシの飼育方法

・飼育ケースの作り方

幅30cmの飼育ケースに、適度に湿らせたい昆虫マットを深さ5cmにしいて、止まり木と餌場をつくれればできあがりです。

昆虫マットの湿り気は、目安として、手のひらでギュッと握っても水滴が出ない位で、少し固まるくらいがちょうどよい湿り気です。湿気が多すぎるとカビやダニが発生して、クワガタムシが死んでしまいます。昆虫マットの表面が乾いてきたら、キリ吹き器等でお水を散布します。

・飼育方法

クワガタムシは、オスどうしの縄張り意識が強く、大あごで激しく争うため、同じ種類のオスとメスを1ペアで飼育した方が良いです。やむをえず数匹のクワ

ガタムシを同じ場所で飼う場合は、大きめの飼育ケースに姿を隠す場所や餌場を2、3ヶ所つくって置くと大丈夫です。

・餌

餌は、バナナや市販の昆虫ゼリーがお勧めです。昔から餌として与えてきたスイカやメロンは水分が多く、おしっこが増えてケース内がすぐに不潔になります。



△飼育ケース



街かど自然探訪

おじゃまします!

かけま 欠真間・欠真間公園

欠真間2丁目にある欠真間公園に7月初旬に行ったところ、サルスベリの真っ赤な花が咲いていました。木がまだ高くないので、間近で観察することができます。周りに植えられたマテバシイには、青い実がたくさんっており、秋にはドングリ拾いができそうです。隅のほうには、柿の木も1本だけあり、まだ青い実がいくつもなっていました。

小さい公園ですが、何種類かの実のなる木があり、花には蝶々が、実には野鳥が来ていて、楽しい公園です。



くすのきのあるバス通りから No.39

ホタルの光とメダカの学校

博物館の「ホタルを学ぼう」に参加しました。今年のホタルは、たくさん出ていました。娘や友達も満足していました。ホタルの光や命のはかなさ——何だか胸にこみ上げて来るものがあります。

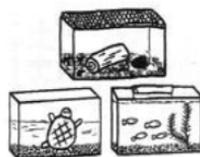
ところで、我が家には娘が学校から持ち帰ったメダカがいます。この暑さで、快適産卵環境であるらしく、毎日卵を産んでいます。でも、悲しいかな、全部孵化はせず、カビが生えたり、「どこに産み付けたの？ まさか、お腹に付けている内に食べられてしまったの？ 追いか

け回されていたよね・・・」と厳しい現実の中、2匹のチビ助が育っています。

「メダカの学校」という歌があるように、日本人の原風景として里山、小川、農地があり小動物があります。しかし現実には、在来種と移入種の問題や地域の変化などが大変深刻な問題となっています。「飼育してどうでしたか?」「何か分かりましたか?」と問いかけるだけではなく現実にも目を向けられるようなメダカの単元であるといいと思います。

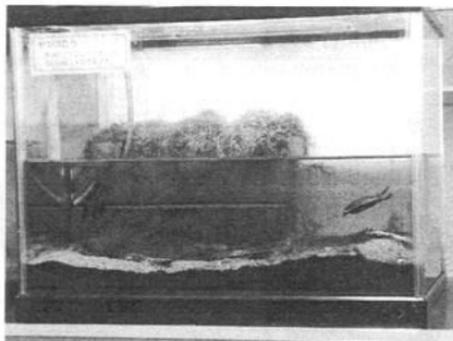
(水垣麻理子さん)

博物館で
こんないきもの飼ってます！



ゲンゴロウ

肉食で結構乱暴ものですが、黒くてピカピカした体に大きな眼、見た目はとても愛らしい姿をしています。後足で上手に櫂を取りながら、水草の間をぬうように小気味よく動き回るので、見ても飽きません。泳ぎながら時々、おしりからまん丸の空気の泡をポコポコと出します。おならをしているようで、おかしいです。水棲昆虫はあまり動かないものが多いなかで、ゲンゴロウは飼っていてもおもしろい昆虫です。



〇〇

こんなふうには飼っています

〇〇

※ ※ ※ レイアウト ※ ※ ※

- ・ 水 … 水槽の半分ぐらい入れています。あまり汚さないで、水替えは様子を見ながら少量づつ換えています。
- ・ 陸地 … レンガにコケを植えた陸地を作っています。人目のない時に上がって体を乾かしています。
- ・ ふた … 必ずします。飛ぶことができるので、蓋にあるすき間も塞いでおかないと、夜の間に逃げられてしまいます。
- ・ エアー … 水の表面にできる膜を防止するために、チューブから少量出しています。
- ・ 水草 … 掴まって休憩するので必要です。入れすぎると、泳ぐのが見られなくなってしまいます。

※ ※ ※ 餌 ※ ※ ※

- ・ 肉食です。冷凍ワカサギを解凍した切り身を与えています。週に2～3回、ゲンゴロウの頭の大きさぐらいのものを、もぐもぐと食べてしまいます。博物館で飼育しているものは慣れているので、ピンセットから直接とります。

観察ノート

◆大町公園より

- ・トカゲの仲間のカナヘビとヘビの仲間のジムグリを見ました。奥の池ではアオダイショウが泳いでいました(5/13)。

宮橋美弥子(自然博物館)

- ・今年初見のツマグロヒョウモンを3頭見ました(5/21)。24日には雄雌1頭づつ見ました。

土居幸雄さん(大町在住)

- ・まだ羽化したばかりのミドリシジミが、足元に止まっていた(6/3)。

小川 晃(自然博物館)

- ・オニヤンマが続々羽化し始めていました。この日の朝は6匹が羽化していました(6/28)。

◆リハビリパーク前大柏川

- ・アカミミガメが甲羅干しをし、キアシシギとコチドリの姿を見ました(5/28)。

以上 金子謙一(自然博物館)

◆柏井雑木林より

- ・クリの花に、蜜を吸いにアカシジミなどのチョウの仲間、花粉を食べに甲虫類が集まっていた(6/2)。

清野元之(自然博物館)

◆里見公園周辺より

- ・サンコウチョウがさえずっていました(5/22)。一瞬、顔が見えましたが、どうやら雄のようです。

◆小塚山周辺より

- ・ヤマガラが営巣していました(5/23)。アカメガシワの枯れた幹に開けられた樹洞に親鳥が青虫を運び入れているのを確認しました。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

- ・キンランが咲いていました(5/9)。1株だけでしたがとてもきれいでした。
- ・アカシジミとヨツズジハナカミキリがネズミモチで吸蜜していました(6/5)

◆じゅん菜池緑地より

- ・ピロードハマキガがゴンズイにとまっていた(6/20)。派手ながらケバイ姿が印象的でした。

◆堀之内貝塚周辺より

- ・ニイニゼミの声を始めて聞きました(6/27)。

以上 道下誠さん(中国分在住)

- ・イヌザクラの実が赤く色づき、深緑を背に目立っていました(6/24)。

◆市営霊園より

- ・ネムノキの花が満開でした(6/23)。正門内側の一本は、枝ぶり、花の数、姿形が見事でした。

以上 介川武夫さん(曾谷在住)

○5月に3回の真夏日、6月6日に梅雨入りしましたがあまり降りませんでした。



行 事 案 内



市川市の自然財産
企画展「長田谷津(大町自然観察園)」
平成16年12月26日(日)まで自然博物館で開催

観 察 会 お申し込みが必要な行事です。

○いきもの観察会 …内容は親子向け。採集もあります。幼児連れ、大人だけでもどうぞ。

○土曜日の自然観察…今年度から土曜日の観察会を始めました。対象はテーマで異なります

	テ ー マ	対 象	日 時	場 所	受付開始日
いきもの観察会	虫の声を聴こう	親子	9月12日(日)午前	博物館周辺	8月21日～
土曜日自然観察	保護区の自然	親子	9月25日(土)午前	行徳野鳥観察舎	9月4日～
いきもの観察会	木の実草の実集め	親子	10月10日(日)午前	長田谷津	9月18日～
土曜日自然観察	秋の谷津	一般	10月23日(土)午前	長田谷津	10月2日～

予申し込み方法

往復はがきに、参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、参加したい行事名を明記の上、自然博物館までお申し込みください。

定員：親子 先着10組
：一般 先着20人

季節を感じる 散策会 お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

*集合場所など、詳しくは博物館に直接おたずねください。

テ ー マ	日 時	場 所
野に万葉の花を訪ねる(秋)	9月19日(日) 午前10時～11時30分	里見公園周辺
秋の野草	10月17日(日) 午前10時～11時30分	堀之内貝塚

長 田 谷 津 ボ ラ ン テ ィ ア

湿地の環境整備をお手伝いしていただきませんか。(雨天中止)

- ・日 時 8月29日①、9月26日① 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もありますので、作業内容や身支度などについて、ご面倒でも、まずは博物館にお電話でお問い合わせください。
- ・自家用車をご利用の場合も、お問い合わせください。

野草名札付けのお手伝いをしていただきませんか。(雨天中止)

- ・日 時 9月5日①、10月3日①
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。

市立市川自然博物館だより
第16巻 第3号 (通巻第93号)
発行日/平成16年8月1日
編集・発行/市立市川自然博物館
〒272-0801 千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/shisetsu/haku>